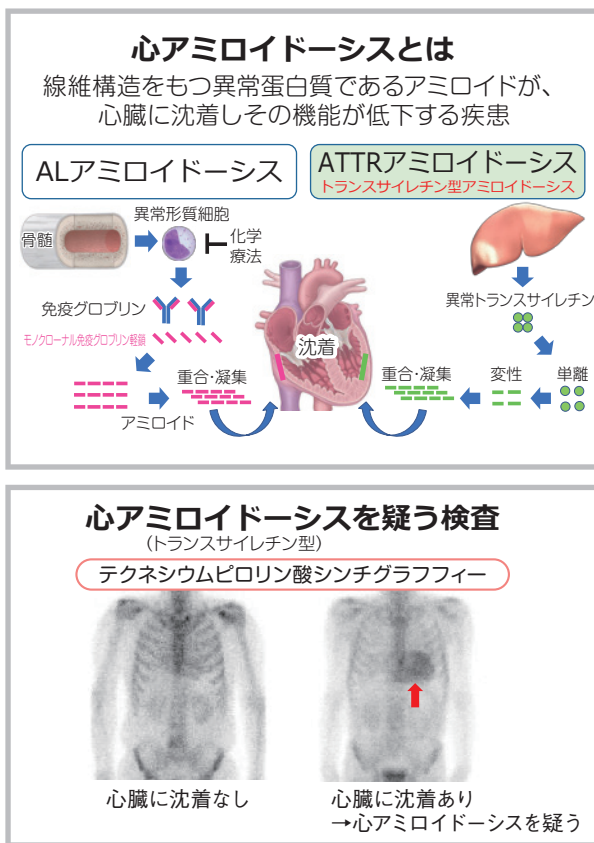


心アミロイドーシスに対する新しい治療薬について

心アミロイドーシスとは

心アミロイドーシスは、アミロイドという蛋白質線維が心臓に沈着し、心臓肥大を来す病気です。進行すると心臓の働きが低下し、息切れやむくみなどが出現する心不全という状態となり、命を縮めます。この病気は主に2つのタイプに分けられ、血液細胞の異常により免疫をつかさどる抗体蛋白の一部がアミロイドとなり心臓に沈着するタイプと、肝臓から異常トランスサイレチンという蛋白が産生されアミロイドに変化し心臓に沈着するトランスサイレチン型心アミロイドーシスと呼ばれるタイプがあります。なぜこのような異常が生じるかということは、現在の医学でも解明されておらず、発症すると命を縮める病気のため難病に指定されています。

心アミロイドーシスは、主にカテーテルという細い管などを使用し、心臓の細胞を一部採ってきて顕微鏡で観察し、アミロイドが沈着していることを証明することで診断されます。また遺伝子の異常が原因のこともあり、採血で遺伝子検査を行います。この病気は、見過ごされていることが多く、診断されていない患者さんが多いと思われます。原因不明の心臓肥大、手根管症候群や腰部脊柱管狭窄症を合併している心不全患者さん、入院を繰り返す心不全患者さんの中に心アミロイドーシスが隠れていることがあります。



■説明は
徳島大学病院 循環器内科
特任准教授
八木 秀介(やぎ しゅうすけ)
■お問い合わせ先
Tel : 088-633-7118
(内科外来)

患者さんへひとこと

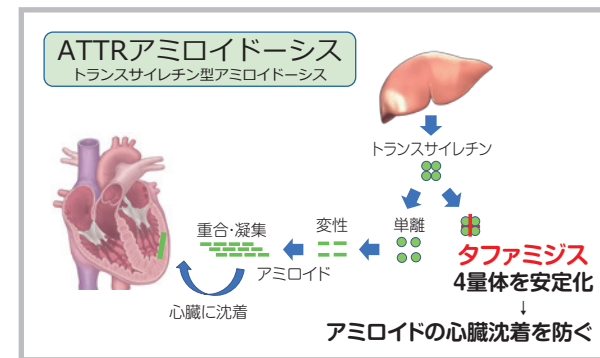
心アミロイドーシスと診断されても、様々な条件があり、すべての患者さんにこの新しい治療を行えるわけではございませんが、心アミロイドーシス患者さんの新しい治療の選択肢になると思われます。早期診断・治療により病状の進行を抑えることが見込めるため、ご担当の先生と相談して専門病院を受診することをお勧めいたします。

新しい治療薬

血液細胞の異常によるアミロイドーシスに対しては、抗体蛋白の産生を抑える化学療法が従来から行われていますが、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対しての根本的な治療は皆無でした。したがって、心不全を発症すると症状のみを楽にする利尿薬で塩分・水分の排泄を促すことしかできませんでした。

しかし、タファミジスという薬剤が開発され、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対して、徳島県では唯一徳島大学病院で治療できるようになりました。タファミジスは、不安定な異常トランスサイレチン蛋白を安定化させ、アミロイドに変化するのを抑制し、心臓におけるアミロイド沈着を防ぐ薬剤です。これまでの臨床試験で、心不全症状や心不全進行を抑制することが示されています。しかし非常に高価な薬剤であり、

検査によって確定診断を行い、難病申請をしてからの治療開始となります。当院でも10例ほど治療しており、現在良好な経過をたどっています。



徳島大学病院としての今後

これまでトランスサイレチン型心アミロイドーシスの治療は、徳島県では認定施設がなく、県外の病院を受診していただかなければなりませんでした。診断されても治療をあき

らめている患者さんもおられると思われます。現在は徳島県でも治療可能であり、徳島県のアミロイドーシス患者さんの症状改善・生命の延伸につなげたいと思います。